

## 早稲田大学 国際教養学部 日本史 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問数4題、小問数40問は例年通り。記述問題13問、選択問題27問(内訳は正誤14問・語句選択12問・組合せ1問)。例年全体の約半が正誤問題だが、今年度は減少した。2つ選ぶ形式の正誤問題は姿を消した。時代別では古代・中世、近世、明治、大正・昭和戦前の4題。2013・14・16年度で出題されていた単独1題の戦後史は今年度も出題されなかった。また、原始時代からの出題もなかった。分野別では2016年度は政治史と外交史で約9割、2017年度は政治史と文化史で約7割、今年度はまた政治史と外交史で約9割となった。史料問題は第IV問の定番の英文史料以外では、第I問で鎌倉時代の日記が、第III問で歴史学者が書いた手紙が史料で出された。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	平安・鎌倉時代の政治 ＜史料＞	問1:オ「最後」ではなく5番目なので誤り。問2:難問。オが誤り。「高倉天皇」の天皇即位は1168年であり、平治の乱(1159年)よりあとなので誤り。問3:「伊豆」。源頼朝は平治の乱で伊豆に配流された。問4:難問。イが正解。「為義の息」とは源行家のことで、「以仁王・源頼政の挙兵」(1180年)に伴い、諸国の源氏に以仁王の令旨を伝え歩き、平氏打倒の決起を促した。問5:イ「武蔵国」ではなく下総国なので誤り。問6:エ「九条兼実」の日記は『玉葉』である。問7:「六波羅探題」。リード文に「鎌倉の政変情報を京都まで伝達した」とある。問8:オ「引付衆の設置」は5代執権北条時頼の時代。ア・イは貞時、ウは義時、エは泰時の時代。問9:やや難。ウ「藤原頼嗣」。宝治合戦(1247年)のときの将軍は5代藤原(九条)頼嗣(在職1244～51)。問10:「三浦」。空欄直前に「泰村」とあり、宝治合戦と分かる。	やや難
II	近世の外交	問1:ウ「李成桂が倭寇を撃退」して朝鮮を建国したのは1392年なので、鉄砲伝来(1543年)より前。問2:オ「ヴァリニャーニ」が天正遣欧使節派遣を計画した。問3:ウが正しい。禁教令(1612・13年)は将軍秀忠の時。アは「断絶」していない、イは「豊臣政権」ではなく徳川家康で「キリシタンへの不信感」もない、エは「島原城」ではなく原城、オは寺請制度は「仏教のすべての流派を保護するため」ではないのでそれぞれ誤り。問4:エが誤り。堺は「寺内町」ではない。問5:オ「江戸・大坂」が加わり五カ所商人となった。問6:「紅毛」人(オランダ人・イギリス人のこと)。問7:エ「支倉常長」は伊達政宗によって派遣された。家康が派遣した田中勝介と区別しておこう。問8:エ「三浦按針」ではなく山田長政なので誤り。問9:ア「断絶」ではなく、江戸時代朝鮮とは国交があるので誤り。問10:「シャクシャイン」の戦い(1669年)を前代のコシャマインの戦い(1457年)と区別しておこう。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅲ	近代の日米関係 ＜史料＞	問1：ウが正しい。日米通商航海条約の破棄通告は1939年。アは1940年、イ・エは1941年、オは1940年以降なので誤り。問2：「張学良」は満州軍閥張作霖の子。問3：「上海」事変(第1次)は柳条湖事件(1931)年の翌年におこった。問4：アが正しい。イ「譲渡」ではなく権限強化、ウ「段祺瑞」ではなく袁世凱、エ「五・四運動」は1919年、オ「要求すべて」ではなく要求の大部分なのでそれぞれ誤り。問5：オが正しい。ア「ロシア」ではなく清国、イ「奉天」ではなく長春、ウ「関東統監府」ではなく関東都督府、エ「国营会社」ではなく半官半民の会社なのでそれぞれ誤り。問6：「ワシントン会議」。史料⑤中の「海備制限」「日英同盟」からアメリカが開催を提唱したワシントン会議と分かる。問7：「山東半島」、問8：「膠州湾」。日清戦争後の中国分割において、ドイツは山東半島の膠州湾を租借した。問9：ウが誤り。「防共協定」まず日本とドイツが結び、そこにイタリアが加わった。問10：エが正解。④1905年以降→⑥1914年→③1915年→⑤1921年→②1931年以降→①1939年→⑦1940年。	標準
Ⅳ	近代の日朝関係 ＜英文史料＞	問1：「東学(党)」。日本の影響下に組織されたと考えられていなかったことや、話が天津条約に及んでいることなどから、解答は東学(党)となる。問2：「天津条約」。朝鮮出兵に際しての相互事前通告を取り決めた1885年の条約である。問3：オ「閔妃」、問4：イ「高宗」。BがCに対して強い影響力を持っており、彼女が韓国(朝鮮)の実質的な支配者ということからBが閔妃、Cが国王高宗。問5：ウ「井上馨」は難問。E(=伊藤博文)と肩を並べる人物で、駐朝鮮公使を勤めたのは井上馨。問6：ウ「伊藤博文」。史料下から6行目に「総理大臣」とある。問7：オ「三浦梧楼」。史料最終行に「虐殺(=閔妃殺害)を正当化する」という文言がある。問8：「大院君」はやや難。「摂政」とは国王高宗の父である大院君のこと。問9：正解はウ。三浦梧楼の裁判は茶番だったとある。問10：正解はウ。「虐殺」された対象人物は閔妃。	やや難

### [総合コメント]

全体的に見ると、標準～やや難のレベルである。例年、外交史と政治史で問題がほぼ占められている。第Ⅳ問は定番の英文史料問題であり、年度を追うごとに史料の読解を要する設問が多くなってきている。また2012年度から全問題の半分以上が正誤問題となっていたが、今年度は40問中14問と減少した。第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ問は基本重視であるが、今年度は少し難しかった。記述問題は2016年度から13～14問である。全体的に難化傾向にあるといえる。